

鶴田町の魅力と可能性

鶴田町の個性を生かし、課題に向き合って将来の可能性に変え、独自のまちづくりを進めます。

1 地理的な特性と利便性

当町は白神山地を水源とする岩木川が南北に流れ、南西には岩木山を見渡し、その麓には津軽富士見湖があります。近隣には、弘前市、五所川原市、つがる市があり、生活物資の供給や教育・医療などで深い関わりを持っています。また、新青森駅や青森空港にもアクセスが良く、広域連携や観光、移住など多くの可能性を有しています。



2 「朝ごはん条例」制定



当町は2004年に健康長寿のまちづくりを掲げ、「鶴田町朝ごはん条例」を制定し、町民が一体となり食生活改善や早寝早起き運動などの活動に取り組んできました。食育基本法や朝ごはん条例に基づき、当町ならではの施策を展開することで、県内屈指の健康長寿のまちとなり得る可能性を有しています。

3 つるたスチューベン

当町はスチューベン誕生の地、米国ニューヨーク州と同じ北緯41度に位置し、気候風土が似ていることから昭和40年代から栽培を推進し、現在は日本一の生産量を誇ります。地理的表示保護制度(GI)の「つるたスチューベン」を取得し、ブランド化を進めています。販路の拡大や加工品開発など多くの可能性を有しています。



4 鶴の舞橋「富士見湖パーク」

津軽富士見湖に架かる「鶴の舞橋」は、青森県産材木で造られた全長300mの「日本一長い木の三連太鼓橋」で有名です。2020年に観光施設「ここにもあるじゃ」が新設され、富士見湖パークは観光交流や憩いの場として幅広く活用できる可能性を有しています。



5 国際交流事業 「姉妹都市フッドリバー市との交流」

1977年に米国オレゴン州フッドリバー市と姉妹都市を提携し、以来、中学生大使や留学生の派遣など様々な交流を通じて強い絆を育んできました。この国際交流事業は人材の育成に加え、当町に興味を持つ関係人口の増加など多くの可能性を有しています。



6 子育て支援の充実

当町では「0歳から高校生までの医療費の無償化」、「0歳から2歳児の保育料無償化」、「保育所等の副食費、学校給食費の無償化」の3つの無償化を実施しています。少子化、少母化が社会問題となっている中、若い世代の移住定住促進に繋がる可能性を有しています。



第6次
鶴田町
総合計画
概要版

「住みたいと思ってもらえる魅力のあるまち」
「住んで良かったと誇れるまち」
「住み続けたいと未来への希望が持てるまち」を目指して

鶴田

The 6th
TSURUTA town
Comprehensive
Plan



[発行] 鶴田町役場 〒038-3595 青森県北津軽郡鶴田町大字鶴田字早瀬200番地1 TEL.0173-22-2111 FAX.0173-22-6007

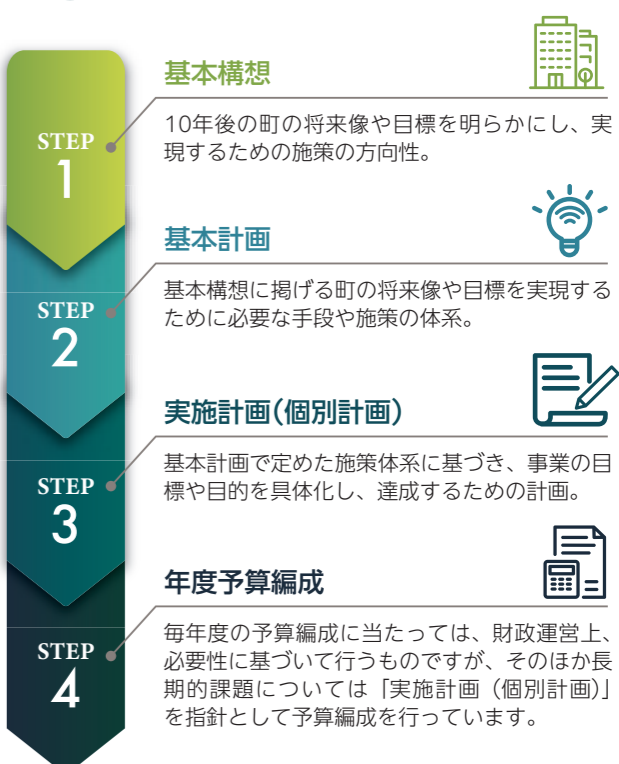
第6次鶴田町総合計画

策定の趣旨

当町は、これまでも令和4年度(2022年)を目標年次とする第5次鶴田町総合計画「わの町ふるさとみらい計画」に沿ったまちづくりを進めてきました。なかでも健康長寿のまちづくりとして、国の食育基本法に先駆けた朝ごはん条例に基づき、独自の取り組みを展開してきたところです。平成23年(2011年)の地方自治法の改正において、国の地方分権改革推進計画に基づき、地方公共団体の運営に関し、基本構想の策定義務が廃止されました。しかし、多くの分野で策定されている実施計画(個別計画)は、本計画を補完し具体化しているものであり、当町の最上位計画(最高方針)として位置付けるもので、様々な変化に的確に対応し、継続的な発展に向けた総合的かつ計画的な行政運営の指針として、長期的な展望を示すため、新たに第6次鶴田町総合計画をここに策定するものです。

計画の構成

総合計画は「基本構想」・「基本計画」・「実施計画」で構成され、毎年度の予算編成に反映されます。



19 町民主役・協働の推進

「自分たちでまちをつくる」という意識のもと、自らまちづくり活動に参画する町民主役のまちを目指します。



20 地域コミュニティの活性化

地域で実施する行事などの情報発信を支援し、地域の絆を深め、だれもが安心して地域で過ごせる「地域共生社会」の実現を目指します。

21 健全で効率的な行財政運営の推進

安定した財政基盤の強化に取り組み、町民にわかりやすい行財政情報の共有化に努め、事務事業の見直しや組織改革を行い、明るく開かれたまちを目指します。



基本構想

健康で若くあるために福祉の増進を図り、持続可能な地域づくりを進め、町全体の幸せを目指します。その上で、住みたいと思ってもらえる魅力のあるまち、住んで良かったと誇れるまち、住み続けたいと未来への希望が持てるまちを実現するため5つの基本政策を掲げ取り組みます。

01 人材育成と農業経営基盤の強化

次世代を担う若者や新規就農者、女性農業者の支援に努め、農福連携を図り、スマート農業技術や省力技術の導入を推進し、農業の生産性向上と経営基盤強化を目指します。



02 特産品のブランド力強化と収益向上

つるたスチューベンの一層のブランド化を図り販路拡大や加工品の開発支援を促進します。また、6次産業化や冬の農業に取り組む農家への支援に努め、収益向上を目指します。

03 商工業事業者の経営基盤強化の推進

商工会等と連携し地域消費拡大や事業者支援を推進します。また、融資保証制度や起業・創業支援の強化を図り、活力あるまちを目指します。

04 鶴の舞橋を主とした観光の推進

「鶴の舞橋」にだれもが訪れたいくなるよう魅力を高め、町民が誇りに思う観光地を目指します。また、イベントの充実を図り活気あるまちを目指します。



05 住みたいと思ってもらえる施策の推進

移住先として多くの人に選んでもらう魅力あふれるまち、子育て世代がいつまでも住み続けられる心温かいまちを目指します。

06 国内外友好交流の推進

姉妹都市フードリバー市や友好都市さつま町と、全ての町民が気軽に交流できる環境づくりに努め、地元高等学校を含め、全ての子どもへの国際教育支援を強化し、希望あふれるまちを目指します。



07 生きがいづくり創出と孤独・孤立対策

地域全体で支え合い見守り合う地域づくりを実現させ、住み慣れた地域で町民のだれもが高齢になっても安心して暮らせるまちを目指します。

08 防犯・交通安全対策

安全・安心の確保のため、防犯・交通安全対策を強化し交通事故のないまち、互いを見守り合う犯罪のないまちを目指します。



18 防災・減災対策の推進

災害発生時には、だれもが防災情報を確認でき、安全に避難ができる体制を整えます。また、自助・共助意識の向上や地域防災活動を促進し、全ての町民が支え合うまちを目指します。

17 消防・救急体制の推進

多様化する災害及び救急に対して効率的、効果的、かつ絶対的な消防力を備え、町民からも信頼された魅力ある消防団を有し、だれもが安心して暮らせるまちを目指します。



16 地域住民の移手段の充実

県や関係機関と連携して交通のデジタル化等を推進するなど、路線バスや地域巡回バス等の利便性の向上を目指します。

15 公共施設等の計画的な更新・長寿命化

道路の舗装整備を促進し、公共施設の集約化や複合化、多機能化による再配置を検討するなど、全ての人々が公共施設を快適に利用できるまちを目指します。

14 冬でも快適に暮らせる除排雪対策

雪が原因となる事故の無いまち、冬をだれもが快適に過ごせるまちを目指します。



13 社会教育環境の整備

スポーツや文化芸術の指導者の発掘・育成等に努め、子どもたちをはじめ全ての町民が生きがいを持つ魅力あるまちを目指します。

12 学校教育環境の整備

全ての子どもが、精神面や経済的不安を抱えることなく、元気に毎日登校したいと心から思える学校のあるまちを目指します。



11 少子化対策と子育て環境の充実

親も子どもにゆとりを持ち、安心して楽しく子育てができ、家庭と仕事の両立ができるまちを目指します。

10 生活環境対策

ゴミ排出量の抑制に努め、自然エネルギーの積極的活用による循環型社会を構築し、住み続けられるまちを目指します。

09 健康増進対策と医療

町民の生きがいづくりや健康増進を図り、全ての人々が助け合いながら命を大切に健康で長生きできる健康長寿のまちを目指します。

